

talk! talk! talk! ミュージシャン・榊いずみ (橘いずみ) さん



ミュージシャン

榊いずみ (橘いずみ) さん

ミュージシャンの橘いずみさんは昨年、俳優の榊英雄氏と結婚。それを機に名前を「榊いずみ」に変更し、今年新たなスタートを切った。いずみさんが写真を撮り始めたのは20歳ごろから。それからだんだんと撮影スタイルは変化し、今では身体の一部となっていずみさんの毎日をとらえているという。オフィシャルサイトで綴られている日記と写真には、飾らない日常が写し出されている。「いずみさんにとってカメラの楽しさとは？」など、今後の夢などもうかがいながら、たっぷりとお伝えします。

プロフィール

橘いずみあため榊いずみ

さかきいずみ。1968年12月11日、兵庫県生まれ。関西学院大学中退。

1992年、ソニーよりアルバム「君なら大丈夫だよ」でデビュー。鋭い言語感覚と叙情的な世界を同時に持つシンガーソングライター。

「失格」「バナナ」「サルの歌」「永遠のバズル」などのヒット曲は未だに愛聴され、多くのフォロワーを生んでいる。8枚のフルアルバム、3枚のミニアルバムを発表。ニューアルバムは2007年3月にリリースの予定。

その他の表現活動として、作/演出を手がけたひとり芝居「真空バツク症」、舞台「モンテ・クリスト伯」、公開が待たれる映画

「LOVEDEATH」にカメラ出演。ハーレー・ダヴィッドソンスポーツスターに乗り、現在HOT BIKE JAPAN別冊「Sportster」に連載中。一方、書道は九段。自然体で歌うように流れる書に定評があり、木村充揮氏アルバム「小さな花」題字、殺陣集団かむむDVD「新雲」題字、その他映画の題字なども手がけ、表現そのものをますます楽しんでいる。そして、2006年結婚を機にアーティスト名を「橘いずみ」から「榊いずみ」に改名。

10月9日(祝)に北沢440にて金子マリ、坂本美雨をゲストに迎えアコースティックイベントを開催するなどライブ活動も活発、12月23日には渋谷O-WESTにてワンマンライブも決定している。

Beginning 出会い

美しいものや ほわんとした色合いのものが好き

写真を撮り始めたのはいつ頃ですか？

20歳くらいだと思います。周囲に写真好きの人が多かったりフォトグラファーの友人がいたりしたので、その影響で写真を撮るようになりました。レンズを通して見ると、目で見るとより詩的だななんて思ったりして。その頃は、どこかに撮影に行く事もありましたし、仕事の合間にスタッフを撮ったりしていましたね。でも今はもっと気軽に撮影をしているというか、写真を撮ることに対してフットワークが軽くなりました。

それは頻繁に撮影をしているということですか？

はい、そうです。毎日カメラを持ち歩いて撮るようになりました。特にどこか撮りに行くのではなく、歩いているときに撮ったり部屋の中でもふと目に入ったものを撮ったり。しかも適当にシャッターを押しているんです。撮るものを見ずにパチリという感覚に近いですね。だからピントもちゃんと合っていないんです。ぼんやりとした写真ばかり(笑)。でも、そういうのもいいなあって思うんです。これも味かなって。

最初の頃と写真を撮る感覚が変わったというのは何かきっかけがあったのでしょうか？

デジタルカメラを使うようになったのは大きいですね。あとは自分のサイトを立ち上げて7、8年くらいになるんですが、最初の頃はたまに撮影した写真を掲載していたんです。それが3年くらい前から日記のページに必ず1枚写真を載せるようになったんです。その頃からだんだんと毎日気軽にパチリパチリと撮っていくというスタイルになっていったのだと思います。ただ、昔からわざと手ブレをさせて撮ったりはしていたので、ぼやーんとした写真はもともと好きだったのかも知れません。でも、毎日撮影するようになったのはここ数年ですね。

主にどんなものを撮影しているのでしょうか？

うーん、どんなものかって聞かれると自分でもよくわからないんですけど.....(笑)、難しいんですが、たぶん、みんなが一緒に見て気づくものではなくて、みんなが見ているのに誰も気づかないもの、見つからないものを見つけると「わーっ」って興奮して撮りたくなっちゃうんです。「こんなものがあったんだ！」って、そういうのが好きですね。

それから自分なりに美しいと思うものを撮っているように思います。特に色、色彩が美しいものに目がいきます。全体的にほわんとした色合いのもの、私は特に青系が好きですね。

美しいものが好きなんですね。

好きですね。私はこれまで、どちらかというとちょっと美しくないものっていうのを覗いてきたりしていたんですね。撮る写真も渋谷の街角のゴミとかカラスとかそういうものが好きで、肩間にしわを寄せて撮っていたと思います。でもいつの間にか撮る写真がきれいなものになってきたんです。

最近はこのきれいなものを歌にしたらどうなるのかなって思ったりもするんです。写真を見て曲を作ったこともあるんですよ。撮った写真を見て、散文詩を書いて、それに曲をつけました。特にどういう風に撮ろうと意図して写真を撮ってはいないので、あとで撮ったものを見て「あっ！」って思いついたり感じたりすることがあるんです。

Pleasure 楽しみ

写真を撮ることで 好きなものを再確認する

撮った写真はどのように管理しているんですか？

撮った後はコンピューターに写真を取り込んで、サイト用の写真を選んであとは消しちゃいます。サイト用の写真は一応資料として残してありますが、あとはあんまり.....。

え？撮ったものを消してしまうんですか？

はい、消しちゃいます。私は撮ったものをあとでゆっくり見るということではなくて、撮影したときにその写真は完結しているんです。あまり残すことをメインに考えて写真を撮っていないんです。

撮る瞬間が楽しいということでしょうか。

そうですね。その瞬間を写真にフリーズするという感覚が楽しいですね。好きなものを目で見ていただけでも楽しいけれど、それをあえて写真で撮ることで「これが好きだ!」「こういうの好きよね?」って自分の感覚をカメラで後押ししているというか、確認作業をしている感じなんです。好きなもの、好きな色、そういうものをカメラであえて意識させているような、好きなものを整理、分類しているような気がするんです。

サイトに掲載している写真は、どのようにして選んでいるんですか?

一見、文書と関係ない写真に見えると思うんですけど、自分の中ではどこか関連付けたものを載せています。分かりにくい感じに繋がってるんです(笑)。

前に撮った写真にはすぐ興味がなくなってしまうので、だいたい日記を書いたその日とか前日に撮った写真を掲載しています。文書に書いてあることを写真にするのではなくて、その日の気持ちとか、その日の色合いとか.....やわらかい文章にはふんわりした写真、みたいな感じで写真を選ぶんです。

文書を書いたときの気持ちの合った写真なんですね。

はい、そのときの気持ちの色合いを表わしているような感じです。

他の写真は消してしまいますが、サイトに掲載した写真はすごく昔のものもデータが残っていて、それには自分で分かりやすいようにタイトルを付けているんです。それでこの前、一度そのデータを見直してみる機会があったんですが、タイトルを見ただけでどんな写真だったかハッキリ覚えてるんですよ。それはすごいなって、自分でも思って。いや、何がすごいかわからないですけど(笑)。

たぶん、写真はビジュアルの世界なんですが、私の中では言葉がセットになっているんだと思うんです。サイトの写真も、なんでこの文章でこの写真?っていうのがあるけれど、自分の中ではその日の言葉と繋がっているんです。

では、それらの写真を見せていただきたいと思うのですが.....消してしまうということなので写真は残ってないかもしれないですね(笑)?

(笑) いえ、残している写真もありますから大丈夫です。記念日的な写真とか、旅行に行った先の写真などは消しちゃうと写ってる人たちに怒られちゃいますからね(笑)。今回は、夫とハワイに旅行に行ったときの写真を持ってきましたので。



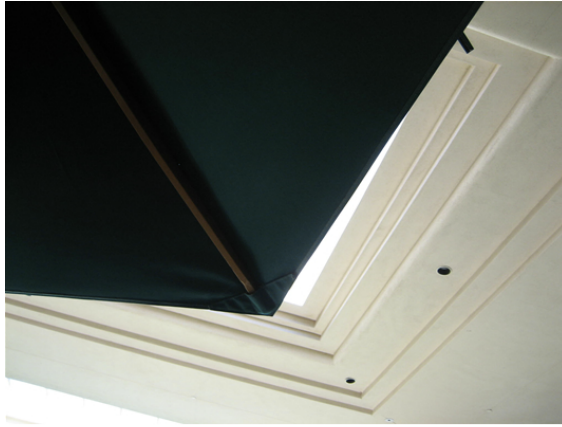
Photo's 作品紹介

ハワイの風景 いずみさんが撮る写真と言葉



光の庭

ホテルのラナイ 光が包む
甘い香りと鳥の声
ひんやりとした石 裸足



幾何学バスル

しかくしかくさんかくさんかく
ちいさなまる



イタリアンレストラン

少し寂れたあたたかい町の日常がのったテーブル



虹

虹はによきと生えてた
拍子抜けするくらい近くに



ルート19

なんでもないところに 真昼の月 火星のような大地
そしてボンコツ
繰り返される夕景



パンチドランク・ヒルトン

青空が撮りたかったんだ なんてことは内緒



どこへいっても、猫

猫はどこへいっても じろりとみてのびをして
しらんぷりで 気にしてる



シンボル

水玉みたいにちっちゃなハワイの神様



ぼとん

誰かが置いた さりげないはからいで
風景にリズムが生まれ

こういう瞬間に 振りたくなります



物語

出て来る人の数だけストーリーがある
よい話 わるい話 どちらもひとつの出来事で



ギフト

光のカーテンの
天使が降りて来て 手に触れる瞬間

Future これから

多くの人とつながりながら 変化を楽しむ人生を送りたい

いずみさんが、歌を通して伝えていきたいものはありますか？

相手に何かを伝えようという気持ちはあまりないんです。そうではなくて、難しいのですが、「理解してくれなくてもいいからちょっとでも覚えててね」というような気持ちなんです。もちろん表現したことに對して理解してくれたり同じように思ってくれたらそれが一番だとは思いますが、それは奇跡に近いことだと思えます。「私の気持ちをわかって！」というのはいちよつと疲れたのかも（笑）。だから、わからなくてもいいから覚えていてくれたらうれしいな！って。

歌でどんなことを表現されているんですか？

特にこれというものはないけれど、自分の視点、見方、生活の中で感じたこと、見たことです。さっき写真を選ぶときに“気持ちの色合い”という言い方をしましたが、気持ちとしては同じなんです。そういうふんわりとしたものを、なんとなく受け取ってもらえればいいかなあという。ハッキリとメッセージを伝えたり、説明したりしたくないんだと思います。

歌から伝わる色合いを感じてもらえたら、という。

はい。面白いのは、受け取ってくれた人が自分とはまったく違う意図を感じてくれたときなんです。自分とは違う感性に触れる感じがする。「ああ、これであなたはそういう風に感じるのか！」って。それは、言いたいことが伝わったときと同じくらい嬉しかったりするんです。なんと言いますか、自分と受け取ってくれる人の中にあるものをもっともっと知りたいですね。そのために歌を唄って、こちらから声をかけているのかもしれない。それが「やあ！」だったり「こんにちは」というときもある。

では最後に、今後の夢を教えてください。

これからも、自分が表現したいときに何かを作って、それを見てもらえる状況がずっと続くといいなと思います。あとは死ぬまでに「こういう生き方をしました！」ってちゃんとと言えるように毎日を暮らせていけたらと思います。これから子供も産まれるだろうし、家族が増えて友だちも増えて、さらに私が表現することで友だちがまた増えていって、そうやって多くの人と手をつないでいけたらいいなと思います。

ご結婚されたことで、その夢に大きく近付いたのではないですか？

うーん、いつでも自分の気持ち次第ですね。今はちゃんと、丁寧に毎日を生きようと思えているから……良い感じじゃないかと思えます。でも、やっぱりひとりじゃ思えなかったかな（笑）。家族のナイスサポートが大きいかもしれません。

もし子供が産まれたら、毎日お子さんの写真を撮りそうですね。なんとなく。

あはははは（笑）！そうかもしれません。たぶん、ニコンの一番いい一眼レフカメラを買っちゃいますよ。写真を残すのが嫌だなんて言っていたのに、毎日フィルムで残しちゃったりして（笑）。でもこれから先もいきている中でだんだんと価値観は変わっていくと思いますし、それも面白そうなので喜んで変わっていかうと思ってます。歌にしても、写真にしても。写真は撮り続けていくうちにまた変化するでしょうね。

歌も、そして写真の変化も楽しみにしています。

ありがとうございます。もう、毎日サイト見ちゃってください。がんばって載せていきますから（笑）！



[> コンテンツトップへ戻る](#)

※掲載している情報は、コンテンツ公開当時のものです。